

平成 2 6 年度

第 4 回 八代市地域公共交通会議 会議録

平成 2 7 年 3 月 2 日作成

八代市地域公共交通会議 会長 永原 辰秋

【日 時】 平成27年1月28日（水） 10時00分～11時30分

【場 所】 八代市役所 大会議室A

【出席者】 27名 (敬称略)

区分	団体・役職	氏名
会長	八代市 副市長	永原 辰秋
委員	産交バス（株）八代営業所長	谷本 正己
委員	（株）麻生交通 代表取締役	麻生 伸一 代理：田代惠輔
委員	（一社）熊本県タクシー協会 専務理事	吉田 光義
委員	八代市タクシー協会 会長	神園 喜八郎
委員	八代市身体障害者福祉協議会 会長	渡瀬 隆
委員	八代市地域婦人会連絡協議会 会長	堀田 陽子
委員	八代市老人クラブ連合会 会長	米田 常男
委員	八代地域 代表	徳田 武治
委員	坂本地域 代表	谷口 信吾
委員	千丁地域 代表	上 五雄
委員	鏡地域 代表	堀 明
委員	東陽地域 代表	後村 新一
委員	泉 地域 代表	松永 松喜
委員	九州運輸局熊本運輸支局 首席運輸企画専門官（輸送・監査担当）	牛島 光英
委員	九州運輸局熊本運輸支局 首席運輸企画専門官（企画調整担当）	松野 完治
委員	全九州産業交通労働組合 書記長	貢 博之
委員	国土交通省九州地方整備局 熊本河川川国道事務所 八代維持出張所 所長	山下 正昭
委員	熊本県県南広域本部 八代地域振興局 維持管理課長	高木 剛生
委員	八代市 土木管理課長	鶴山 信一
委員	八代警察署 交通第一課長	堤 信二
委員	氷川警察署 地域交通課長	丸山 博一
委員	熊本県立大学 環境共生学部 居住環境学科 准教授	柴田 祐
委員	八代校長会 麦島小学校校長	泉 正章
委員	熊本県 企画振興部 交通政策課 審議員	財津 和宏 代理：山田純子
委員	氷川町 総務課長	陳野 信次
委員	八代市 企画振興部長	坂本 正治

(敬称略)

【欠席者】 (社) 熊本県バス協会 専務理事 新居 唯一 1名

【事務局】 企画振興部 総括審議員 福永 知規
企画政策課 課長 宮川 武晴
企画政策課 課長補佐 梅野 展文
企画政策課 係長 草西 亮介
企画政策課 主任 坂本 友和

【議題】 ◆協議事項

【資料】 1. 八代市地域公共交通網形成計画（素案）について

【以上、資料1、2、3】

【資料1 八代市地域公共交通網形成計画（たたき）】

【資料2 八代市地域公共交通網形成計画 概要版
（たたき）】

【資料3 八代市地域公共交通網形成計画策定に係る
今後のスケジュール】

2. 路線バス運行内容の見直しについて

【以上、資料4】

【資料4 路線バスの運行内容見直しについて】

◆報告事項

1. 平成27年度以降の事業スケジュールについて

【以上、資料5】

【資料5 平成27年度以降の事業スケジュールについて】

【公開状況】 公開

【傍聴者数】 0名

【所管課】 企画政策課 企画係 (内線2263)

【発言要旨】

◆協議事項

1. 八代市地域公共交通網形成計画（素案）について

<事務局説明概要>

※資料2を用いて各項の概要を説明した。

1) 地域公共交通網形成計画の概要

・計画の背景と目的、計画の対象区域、計画期間について説明した。

2) 八代市の概況

・市の概況として、地勢、人口特性、土地利用、通勤・通学状況、公共交通の概要について説明した。

・公共交通の概要では、路線バス、乗合タクシーの運行路線を示す

とともに、鉄道駅や主要バス停などの交通結節点についても説明した。

3) 市民アンケート調査結果

- ・市民の外出行動特性として、外出目的や外出先、外出頻度などについて説明した。
- ・市民の公共交通の利用特性として、直近1か月の利用状況や利用頻度、公共交通を利用しない理由、公共交通に対する改善要望などについて説明した。
- ・市民の公共交通に関する意向として、財政負担の認知状況や財政負担の考え方、公共交通のあり方などについて説明した。

4) 八代市の公共交通の問題点

- ・路線バスに関する問題点として4点「①サービス水準に対して利用者が顕著に少ない路線が存在」、「②複数の路線が重複し、運行頻度が過剰になっている区間が存在」、「③利用者の移動ニーズとの食い違いによる利便性の阻害や利用の低迷」、「④運賃設定や市中心部へのアクセス性などに関する地域間の格差」の内容について、運行状況や利用状況の分析結果に基づいて説明した。
- ・乗合タクシーに関する問題点として、2点「①予約運行便における設定便数と利用状況とのバランスの乱れ」、「②サービス水準に対して利用者が少ない定期運行便が存在」の内容について、運行状況や利用状況の分析結果に基づいて説明した。
- ・乗り継ぎに関する問題点として、2点「①適正な乗り継ぎ時間の確保が不十分な交通結節点が存在」、「②円滑な乗り継ぎ可能な環境が整っていない交通結節点が存在」の内容について、現地状況や運行状況の分析結果に基づいて説明した。
- ・市内の公共交通不便地域の状況を説明し、中でも問題点として3点「①人口集積が顕著なエリアにも公共交通不便地域が存在」、「②公共交通不便地域が薄く広く分布するエリアが存在」、「③その他、比較的人口が多い公共交通不便地域が存在」について、それぞれの現状を説明した。

5) 八代市における公共交通のあり方

- ・八代市における公共交通のあり方（基本方針）と、本計画の目標及び評価指標等について説明した。
- ・計画の目標については、基本方針の実現に向けたものとして掲げる5項目の各内容を説明した。
- ・評価指標については、目標の達成状況を評価するものとして設定する7項目の各定義、現況値、目標値を説明した。

6) 目標達成のための取り組みの方向性と施策展開

- ・取り組みの方向性7点の概要、関連分野との連携の考え方、公共交通の役割分担について説明した。
- ・また、目標達成に向けた施策展開について、資料1を用いて各施策内容を説明した。

①路線バスに関する施策展開

- i. 利用が低迷するバス路線の改善

- ii. 路線バスが重複する区間の運行効率化
 - iii. 利便性向上に向けた起終点・経路の見直し
 - iv. 市街地循環バスの運賃設定の適正化
 - ②乗合タクシーに関する施策展開
 - i. 利用状況に関する“目安”に基づいたサービス水準等の見直し
 - ③交通結節点に関する施策展開
 - i. 乗り継ぎ利用に配慮したダイヤの調整など
 - ii. 交通結節点における乗り継ぎ環境の改善
 - ④公共交通不便地域に関する施策展開
 - i. 特に人口集積が顕著な公共交通不便地域への優先的な対応
 - ii. 五家荘地区を対象とした新たな公共交通サービスの導入
 - iii. その他の交通不便地域への対応の検討
 - ⑤公共交通の有効活用に関する施策展開
 - i. 積極的な広報・分かりやすい情報提供や利用の“きっかけ”づくりの実施
 - ii. 公共交通に対する“愛着”や地域で公共交通を守っていく意識の醸成
 - iii. モビリティ・マネジメントの実施
 - iv. 商店街や観光施設などと連携した利用促進策の推進
 - ⑥地域が一丸となって公共交通を支える仕組みに関する施策展開
 - i. 公共交通の継続的な改善を実施していくための仕組みづくり
 - ii. 公共交通に対する改善要望等を積極的に収集し、活用する仕組みづくり
 - iii. 地域が主体となった取り組みを促進していくための仕組みづくり
- ・各事業・施策それぞれの実施主体及び実施機関について説明した。
- 7) 計画達成状況の評価について
- ・計画達成状況の確認・評価として、5年間を対象期間とした計画全体の評価を行う「大きなPDCA」と、1年間を対象期間とした各事業の評価を行う「小さなPDCA」を行うことについて説明した。
- 8) 八代市地域公共交通網形成計画策定に係る今後のスケジュール(資料3)
- ・今後のスケジュールとして、「パブリックコメントの実施」、「公共交通ネットワーク分科会・乗合タクシー分科会の開催」、「地域公共交通会議の開催」、「国交省等への計画の提出」の予定と大まかな予定日を説明した。

< 発言要旨 >

熊本運輸支局：持続可能な公共交通を維持構築していくためには、交通事業者だけでは難しく、市民や地域の協力なしにはできない。長野県の事例ではトリガー制度を設けている。八代市の場

合は市町村合併をしていることもあり、それぞれ地域特性等も違い、対応するメニューも違ってくることが想定される。各地域の置かれている現状や思い、困っていること、要望などを地域の代表の方々に一言ずつ頂き、計画の素案に反映して行ってほしい。また、他の関係者にも地域の思いを共有していただきたい。

- A 委員：乗合タクシーの施策展開について、定期運行便の空便率が30%を超えると、全便や一部の便のサービス水準引き下げ検討とある。河俣～種山線は、33.0%の空便率だが、実状、朝一便のバスは町から山に行くが、就労場所がないので空便になる。夕方の便は町から山に行く便は乗車があるが、帰りは空便になる。4往復の場合すでに25%になる。そうした特性を考えて検討いただきたい。
- B 委員：坂本～百済来線の車両が大きく、乗降時の階段が高齢者の方の負担となっている。大門瀬での乗り継ぎについて、待ち時間が長いといった声も聞く。待ちきれずに両手に荷物を抱えて、歩いて帰ったということもよく聞く。坂本駅方面、二見方面の路線バスがあるので、なかなか調整がつきにくいことは承知の上で、なんとかバランスのとれたダイヤ調整を検討いただきたい。
乗合タクシーも路線バスも利用者が少ないからといって切り捨てずに検討いただきたい。
パブリックコメントが実施されるとのことだが、普段から気軽に意見を収集できるように、支所等での窓口を設けるなどの仕組みを考えて欲しい。
- C 委員：種山線について、労災病院止りの便を中心部まで延伸して欲しいという声がある。また、現在運行されていないところへの迂回運行について、区長に話を聞いて回ったところ、千丁地域は若い人たちやクルマ運転者が家族にいて、外出時は事足りているようだ。新たにバス路線を通して利用されないのではないかと聞いた声がある。
- D 委員：鏡地域は、松橋、種山方面の通過点であり、今のところ不便であるとの声は聞いていない。交通不便地域が2地域あり、この地域への取り組みを慎重に進めていただきたい。
- E 委員：乗合タクシーの社会実験を行ったが、五家荘地域まで40km以上あり、回送コストがかかるのが課題となっている。先日の分科会でも発言したが、市町村有償運送の運行を検討してほしい。
- F 委員：バス路線の赤字補填について、どこまで行政ができるのか聞きたい。
- 事務局：東陽地域の河俣～種山線については、今回示しているのは現在の状況の課題、目安であって今後見直しは地域の実情を踏まえながら検討していきたい。
坂本地域の坂本～百済来線のバスタイプについては、事業

者の方で取り組みを検討頂いている。運行についてのご意見は随時受け付けているので、支所経由でも直接でもよいのでお寄せいただきたい。

千丁地域については、中心部への延伸は検討していきたい。不便地域、これまで利用がなかった所への乗り入れも地域の方から意見をいただきながら検討していきたい。

鏡地域についても同様な地域の声を聴いて慎重に進めたい。

泉地域については、具体的な意見をいただいたので、実施については検討させていただきたい。

八代地域から出された赤字に対する懸念について、財政支出はあまり増えないように取り組むたいと考えている。

会長：パブリックコメントについては、もっと宣伝すべき。メディア等への分かりやすい資料を提示して、今どういうことを行っているかを伝えてもらえれば、より意見が集まるのではと思う。

県交通政策課：八代市の公共交通としては、バスだけではなく鉄道も考えるべきではないか。計画中には乗り継ぎ改善等の記述があるが、人の交流活発化ということで観光面に関して、域内の公共交通、域外から鉄道の活用、バスの連携についても計画の中に盛り込んでどうか。

熊本運輸支局：八代市は交通資源として、新幹線、JR本線、おれんじ鉄道もあり、人の移動、観光面を考えてみても、鉄道との結節も重要な部分もある。この部分を計画の中に厚みを持たせていってはどうか。

事務局：計画の中に反映していきたい。

G 委員：財政負担について、八代市も国の特別地方交付税の申請をされているのではと思う。1. 8億のうち8割は国庫補助、2割が市の支出になっている。国庫の仕組み及び市の財政収入・支出について市民に開示すべきだろう。今の資料では、1億8700万がバスの事業者に、市の財政からのみで負担しているとしか受け取れない。

結節点について、バス停の表記や移設などの問題提起が書かれているが、ダイヤ調整も大事だが待合所の整備も必要だろう。事業者が行うのか、行政が行うのか、地域も含めてするのか、計画に盛り込んで欲しい。

高齢化率がこれから4割近くまで上がることから、福祉政策を含めて、市の政策を大きく転換する部分に来ている。町の財政や企画の方だけでこの計画がすすめられているが、福祉政策として市の基本計画・マスター計画でも進める必要があるのではないか。

事務局：特別交付税の仕組みについてはご質問の趣旨の通り。八代市の予算の仕組みとしては、特別交付税を特別財源として当てていない。バス事業者への補助金を、特別交付税を申請するための一つの事業として要求はしているが、実際積

上げた個別の事業ごとに交付されているわけではなく、市として全体でいくらとなっているので、公表の仕方については工夫させていただきたい。

待合環境については、施策の展開の中に「交通結節点における乗り継ぎ環境の改善」という形で位置づけている。行政・交通事業者だけでなく地域とも協力しながら、今後の施策展開の中で具体化を図っていききたい。

福祉政策との関連については、計画の中でわかるように整理するようにしたいと思うので、いったん預からせて頂きたい。

熊本運輸支局：乗り継ぎ拠点の事例として情報提供になるが、独居老人の外出を促す意味から、集まりやすい集会所やコンビニを乗り継ぎ拠点としている事例もある。柔軟に考えていく必要があるだろう。具体的な検討を進めるにあたってはそういった点も考慮していただきたい。

※その他意見無し

指摘事項等を検討・反映し、素案として可決

2. 路線バス運行内容の見直しについて

<事務局説明概要>

※資料4を用いて各項の内容を説明した。

1) 種山線（労災病院～種山）の発時刻変更

- ・平成26年10月1日の改正にて、土日運行便の一部について発時刻を平日に合わせるダイヤ改正を行っていることを説明した。

2) 平和町線（南平和町～八代市役所）の発時刻変更

- ・平成26年10月1日の改正にて、運行便の一部について回送時間の確保のために発時刻を2分早くするダイヤ改正を行っていることを説明した。

3) 松橋線（県道経由）及び坂本線の発時刻変更

- ・平成26年10月1日の改正にて、運行便の一部について回送時間の確保のために発時刻を5分早くするダイヤ改正を行っていることを説明した。

<発言要旨>

特に意見なし

原案のとおり可決

報告事項

1. 平成27年度以降の事業スケジュールについて

<事務局説明概要>

※資料5を用いて各項の内容を説明した。

- ・活性化再生法の改正に伴い、公共交通体系の再編及び地域公共交通確保維持事業実施に向けてのスケジュールについて変更する。
- ・地域公共交通再編調査事業に関する国の要綱が確定しておらず、現段階では、以下の2ケースを想定し、検討を進めていく。

ケース1：来年度は生活交通ネットワーク計画を作成し地域公共交通確保維持改善事業を活用して公共交通体系の再編に取り組んでいく。

ケース2：地域公共交通再編調査事業を活用して地域公共交通再編実施計画の策定を進め、再来年度に地域公共交通再編事業による重点支援を受けて公共交通体系の再編に取り組んでいく。

<発言要旨>

熊本運輸支局：補助関係の金額については、国会審議中である。予算審議に応じて変更していくことを事前に了承いただきたい。国としても地域の努力に対して報いていく補助制度を作る等、具体的なものへの支援も現在検討中である。ただし、頑張る地域にはできる範囲で支援していきたいといった国の意向がある。

H 委員：スケジュールに関して実施計画の中で、優先順位が必要と考えるが、どのように考えているのか？

事務局：検討を含めてということで平成27年度からということにしている。どの路線から実施していくかについて現時点では言えない。3月中にはもう一度公共交通会議を行うので、そこではある程度具体的に示せるのではないかと思う。

※その他意見無し

【審議結果】

協議事項

1. 八代市地域公共交通網形成計画（素案）については、指摘事項等を検討・反映し、素案として可決。
2. 路線バス運行内容の見直しについては、原案のとおり可決。